

### グローバル人材育成プログラム に参加して

岸田 健太  
Kenta KISHIDA  
数理情報学科 3年

#### 1. はじめに

私はグローバル人材育成プログラムに参加し、2015年8月17日から8月28日にかけてカリフォルニア州にある White Blossom Care Center で実習を行いました。本プログラムに参加しようと思った理由は2つあります。1つは、今まで勉強してきた英語がどの程度実践の場で通用するのかを知りたかったからです。またそれと同時に、海外の職場で働くことによってさらに英語力を伸ばす事も出来ると考えました。コーディネーターの方には日本人が一人も居ない職場をお願いし、出来るだけアメリカでは日本語を排除して過ごしました。もう1つは、世界中から様々な人種が集うアメリカで色々な価値観を知り、良い部分を吸収したかったからです。留学経験や海外での長期滞在経験がなかったので、異なる文化圏での実習はとても魅力的なものに感じました。また本プログラムでは実習のほかに事前学習・企業訪問・講演会の参加なども行いました。特に事前学習ではインターネットを通じて約4か月間英会話を学ぶことができ、とても役に立ちました。

#### 2. 企業概要

White Blossom Care Center は主に身体に障がいを持ったお年寄りを対象とした介護施設で、リハビリ施設としての機能も兼ね備えています。食事や入浴・移動・排泄などの居住者の方の身の回りの世話に加えてリハビリの一環として歩行訓練・筋力トレーニング・マット運動などの補助も行っています。

#### 3. 実習内容

午前中は主に、アクティビティルームと言う部屋

を中心に実習をしていました。そこでは居住者の方  
に楽しく過ごしてもらうため、ゲーム・映画鑑賞・  
調理実習・フリーマーケット・ダンスなど様々なア  
クティビティが行われます。まず全てのアクティビ  
ティがはじまる前に各廊下を歩いて周り、その日に  
どんなアクティビティが行われるのかを皆さんに伝  
えて、参加しようと思っている方を部屋まで移動さ  
せていました。居住者の方はほぼ全員が車いすを使  
用しているのですが、中には車いすに乗っていても  
自力での移動が困難な方が数多くいらっしゃいま  
す。移動後は各アクティビティの準備にとりかかり  
ました。準備が整いアクティビティがはじまると、  
耳がよく聞こえない方や、目がよく見えない方のた  
めに今何が行われているのかを随時説明したりアク  
ティビティを手伝ったりしていました。

午後に入ってからアクティビティルームを離  
れ、食事の手伝いや、事務的な作業（書類のコピー  
や整理・電話対応・異なる部署間での連絡係など）  
をしていました。そのほかには郵便物を届けたり、  
雑誌・新聞・クロスワードなどの配布をしたりしま  
した。郵便物は万が一間違えて届けてしまうと大変  
な事になるので、部屋番号や名前、本人に直接確認  
するなど二重三重にチェックをしていました。雑誌  
類の配布の際は、全ての部屋をまわり1. 居住者の  
方が何をしているのかをチェックシートに記入し  
2. 何の目的で部屋に来たのか説明し3. 何を持っ  
ているのかを説明し4. 居住者の方が欲しがって  
いるものを手渡すと言う流れで行って行っていました。  
チェックシートに記入する理由は、職員の方が居住  
者の方の生活習慣や普段なにをしているのかを少し  
でも詳しく把握しておくためです。

#### 4. 実習を通して

私は実習中にいくつか失敗をしました。口がうまく  
動かせないためにハッキリ話す事が出来ない方に  
話しかけられた際の事です。相手の言っていたこと  
が二度聞き返してもわからなかったため、わかつた  
ふりをしてやり過ごしました。その後、実はその方

は、「トイレに連れて行ってくれないか」と自分に頼んでいた事がわかりました。自分のせいでそれが発覚するまでずっと居住者の方にトイレを我慢させてしまい大変申し訳なく思いました。わかったふりが良くないと言うのは理解していたのですが、その時身にしてみても痛感しました。その後は何をすることも理解していない時は、わかるまで何度でも何度でも繰り返し聞くよう心がけました。

居住者の方の移動を手助けする際には、自分の思いもよらない形で不快な思いをさせた事がありました。移動している方が居たら積極的に手助けをしていたのですが、ある方の車いすを押そうとした瞬間「このくらいは自分一人で出来る！」とおっしゃられたのです。自分はこの瞬間まで、まるで流れ作業のように、当然のように車いすを押して移動の手助けをしていました。しかし、居住者の方の中にはリハビリのため、あるいは筋力維持のためにあえて自力で移動しておられる方や、こちら側が過剰に手助けをするのを嫌う人がいます。良かれと思ってやった事でも、それがむしろ居住者の方のプライドを傷つけてしまう可能性がある事がわかりました。それからは、移動の際だけでなく、食事の際や着替えを助ける際はもちろん、全ての行動において細心の注意を払うよう心がけ、そこからは二度と同じような事はなくなりました。これらの失敗から学んだ事は、常に相手の立場にたって、相手の気持ちを考えて行動することが一番大切なのだと言う事です。

電話対応の際には音質の悪さに加えて、相手の話すスピードが物凄く早いので最初の数人はとても聞き取りに苦労しました。それでも最終的には何十人と電話をかけていくにつれてだんだんと慣れてい

き、問題なくこなすことが出来ました。「君の英語力なら電話を任せてもいい。」と言うことをおっしゃって頂いてからの電話対応だったので、失敗は絶対に出来ないと言う気持ちでした。非常に緊張感があっただけに達成感も格別なものでした。

自分でも意外だったのですが、今回の実習中、アメリカ滞在中に英語が原因で困った事は電話対応を除いてほとんどありませんでした。アメリカへ行く直前に受けた TOEIC では 945 点だったため、少しは自信がりましたが、それと同時に“本当にアメリカで自分の英語が通じるのだろうか、相手の言う事が理解出来るのだろうか”と言う不安の方が大きかったので、今回の実習を通して自分の英語力に関しては非常に大きな自信を得る事が出来ました。世間では TOEIC の勉強はあまり実用的ではないと言う方が多数おられますが、今回の実習の経験から、TOEIC は海外の職場環境でも応用可能な非常に役に立つテストであると自信を持って言う事が出来ます。もしも読まれている方が以前の自分と同じような不安を抱えていらっしまったとしても、是非そのまま TOEIC の勉強を続けてください。

## 5. おわりに

2 週間と言う短い間でしたが、たくさんの事を学ぶ事ができました。実習先企業の方やホームステイファミリー、コーディネーター、学校関係者の方など、本プログラムに携わってくださった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。実習は終わってしまいましたが、これからも燃え尽きる事なく、そして英語に関する事だけにとどまらず、この経験を糧にして今後成長していきたいと思えます。